

平成19年度第5回理事会議事録

日 時 平成19年11月7日(水) 14:00～

場 所 日本体育協会 理事・監事室

出席者 <理事>

森会長、長沼副会長、佐治副会長、岡崎専務理事、泉常務理事、
監物常務理事、森常務理事、有賀、臼井、尾崎、小関、落田、
久保田、坂本、篠宮、鈴木、竹田、田中、中内、樋口、古川、松田、
渡邊の各理事

<委任>

斉藤、福島、不老、御手洗の各理事(議長に委任)

<監事>

市川監事

理事総数27名、うち出席23名、委任4名、計27名で寄附行為第32条に基づき理事会成立。

会議に先立ち、去る9月29日に逝去された 故鬼塚喜八郎氏(日本バスケットボール協会会長、本会オフィシャルパートナー・株式会社アシックス会長)、10月13日に逝去された 故小林徳太郎氏(本会元常務理事、日本水泳連盟元副会長)、10月18日に逝去された 故木原光知子氏(本会日本スポーツマスターズ委員会委員、同シンボルメンバー)のご冥福を祈り、全員黙禱にて弔意を表した。

議 案

第1号 学識経験評議員の委嘱について (森会長)

学識経験評議員のうち、(独)日本スポーツ振興センター理事長の両宮忠氏が、同センターの役員人事により、小野清子氏に交代したことに伴い、新しく同センター理事長に就任した小野清子氏を学識経験評議員として委嘱することについて諮り、これを承認。なお、任期については、前任者の残任期間となる平成21年3月31日までとなることを報告。

報告事項

1. 会務関係

- (1) 平成 2 0 年度公営競技団体への補助金要望について (岡崎専務理事)
本年 7 月開催の第 3 回理事会で会長に一任されている平成 2 0 年度公営競技団体への補助金の要望については、日本自転車振興会に対する補助金要望額を平成 1 9 年度に対して、3 百 4 2 万 7 千円、1 . 5 3 % 増の 2 億 2 千 6 百 9 5 万 6 千円としたことを報告。
- (2) 第 6 2 回国民体育大会 (秋田県) における国民スポーツ推進キャンペーン P R 活動について (岡崎専務理事)
従来同様、開・閉会式会場をはじめとする各競技会場に、標語看板及びオフィシャルパートナー各社の連名看板を掲出した。また、秋田駅前に設置した「国体プラザ」、「開・閉会式会場」、「イオン秋田ショッピングセンター」の各会場において、本会事業紹介、オフィシャルパートナーの展示・販売などを行うとともに、キャンペーン標語やスポンサーロゴの入った応援用小旗を 4 万本作成し、開会式会場及び各競技会場で配付するなど、本会キャンペーン及び諸事業の P R を行ったことを報告。
- (3) 本会創立 1 0 0 周年記念事業への取り組みについて (岡崎専務理事)
本会は、1 9 1 1 年 (明治 4 4 年) 7 月 1 0 日に創立され、2 0 1 1 年 (平成 2 3 年) 7 月 1 0 日をもって創立 1 0 0 周年を迎えることから、この機会に、これまで、本会を支援・協力していただいた多くの関係者と共に 1 0 0 周年を祝い、併せて、新たな 1 0 0 年に向けて、我が国の国民スポーツ振興、とりわけ「生涯スポーツ社会」の実現に取り組む本会の強い姿勢と使命を広くアピールするため、記念事業の実施に向けて取り組んでいくことについて報告。
1 0 0 周年記念事業への取り組みとして、まず、準備委員会の立ち上げについて了承されるとともに、その人選については、森会長に一任された。
- (4) 平成 1 9 年秋の勲章・褒章受章者について (尾崎部会長)
去る 1 1 月 3 日に勲章及び褒章の受章者が発表され、本会推薦の勲章受章者として、全日本スキー連盟元専務理事の丸山庄司氏、日本バドミントン協会元副理事長の浅岡 武氏及び日本クレール射撃協会元会長の井口 哲次郎氏がそれぞれ旭日双光章を、また、褒章受章者として、日本ホッケー協会会長の吉田大士氏及び全日本アーチェリー連盟元副会長の高橋克宏氏がそれぞれ藍綬褒章を受章されたことを報告。
また、森会長より、樋口理事が永年にわたりプロゴルフ界にあって、優

れた成績をあげられるとともに、後進の育成に寄与された功績により、この度、紫綬褒章を受章されたことを報告。

2. 国民体育大会関係 (泉委員長)

(1) 第62回国民体育大会(秋田県)の終了について

第62回国民体育大会は、9月29日(土)から10月9日(火)までの11日間、開会式に天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、秋田市他計13市5町1村で、正式競技37競技と公開競技2競技に、47都道府県から選手・監督24,635名、本部役員1,076名の計25,711名が参加して行われた。

特に、中学3年生の参加については、従来の9競技に加え、ソフトテニス、フェンシングの2競技が拡充され、計11競技に431名が参加した。

各競技会は、新聞等で既に報道されている馬インフルエンザの影響により、馬術競技会5日間のうち、4日目と最終日の競技が中止となったものの、会場地を始めとする関係者の方々のご尽力により、特に大きな事故もなく、無事終了した。総合成績は、秋田県が男女総合成績及び女子総合成績で念願の初優勝を果たし、天皇杯・皇后杯の両杯を獲得した。

国民体育大会への県民参加をねらいとして実施した「デモンストレーションとしてのスポーツ行事」には、21行事に6,557名が参加。

また、(財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)が実施したドーピング検査は、競技会検査で14競技100検体、競技会外検査で12競技50検体、合計延べ26競技150検体で実施。1名分が検査機関に到着した際に尿量が不足しており分析が行われなかったが、分析された149検体は全て陰性であった。なお、分析不能であった選手について制裁等が科されることがないことをJADAに確認していることを報告。

その後、秋田県体育協会副会長である鈴木理事から謝辞が述べられた。

(2) 第62回国民体育大会(秋田県)ドクターズ・ミーティングの終了について

今回で14回目となるドクターズ・ミーティングは、開会式前日の9月28日(金)に秋田市内のホテルにおいて、各県の帯同ドクター代表等149名が参加し開催された。

本年国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)の「スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約」が発効し、JADAを中心とした我が国におけるドーピング防止体制が充実してきている。このことを受けて、本ミーティングでは、JADAからの特別プログラムを設定し、8月に大阪で開催さ

れた世界陸上で、1,000検体の規模で行われたドーピング検査の実施概要等について、詳細な報告がなされたことを報告。

3. 国際交流事業関係 (松田委員長)

(1) 第11回日韓スポーツ交流事業 成人交歓交流(受入)の終了について

本年度で11回目となる日韓スポーツ交流事業の成人交流は、去る9月21日(金)から26日(水)までの6日間、青森県において韓国選手団の成人175名を受け入れて実施した。従来7日間の交流期間で実施しているが、今回は韓国側の航空機手配の都合により6日間となった。

本交流事業では、青森県で同時期に開催された第20回全国スポーツ・レクリエーション祭への参加を中心とし、韓国選手は10競技に参加。韓国選手団の成績については資料のとおりであるが、受入地の青森県関係者及び対戦した参加者との親善交流等に成果をあげ、大変有意義な交流事業となったことを報告。

(2) 日中スポーツ交流事業 国民体力テスト研究員交流事業(受入)の終了について

本会と中華全国体育総会は、平成17年度より共同して、日中両国民の体力比較に関する調査研究を実施しているが、その研究報告書取りまとめの最終協議等のために、去る10月20日(土)から26日(金)までの7日間、中華全国体育総会の代表団7名の受入を行ったことを報告。

4. 日本スポーツマスターズ関係 (坂本委員長)

・ 日本スポーツマスターズ2007びわこ大会の終了について

本年で7回目となる「日本スポーツマスターズ2007びわこ大会」は、去る9月14日(金)から18日(火)までの5日間、滋賀県下13市・29会場にて開催され、13競技に全国から7,308名という本大会史上最多の選手・監督が参加し、熱戦を繰り広げた。

開会式は、高円宮妃殿下にご臨席いただき、従来同様、参加者の親睦・交流を目的とした前夜祭的な形式で行われ、選手、監督関係者約1,200名が参加するとともに、日本スポーツマスターズの広報・PRにご協力いただいているシンボルメンバーも参加し、華やかな雰囲気で行われたことを報告。

5. 生涯スポーツ推進事業関係 (森委員長)

(1) 平成 19 年度「体育の日」中央記念行事の終了について

平成 19 年度「体育の日」中央記念行事 / 子どもの体力向上キャンペーン事業 元気アップ子どもスポーツフェスティバルを、去る 10 月 8 日 (月・祝) に本会及び文部科学省、日本スポーツ振興センター、日本レクリエーション協会の 4 団体の共催により実施した。

オープニングでは、子ども体力向上キャンペーンの一環として、全国の小学生から募集したポスター及び標語の優秀作品の表彰式を行い、計 6 名が表彰された。

当日は、あいにく小雨が降り続く一日であったが、小学生及び親子を対象としたスポーツ教室を始め、国立スポーツ科学センターの諸施設を活用した各種行事に計 1,371 名が参加、イベント開催の目的の一つである「体を動かすことの楽しさや大切さを多くの子ども達に知ってもらいたい」という意図を参加者に伝える良い機会となったことを報告。

(2) 第 20 回全国スポーツ・レクリエーション祭の終了について

「熱くなれ みんな輪になれ りんごの国で」をスローガンに、去る 10 月 22 日 (土) から 25 日 (火) までの 4 日間、青森県下 10 市 6 町において、都道府県参加種目 18 種目に 7,439 名、フリー参加種目 8 種目に 2,433 名が参加。会期中は天候にも恵まれ、各会場では熱戦が繰り広げられるとともに、参加選手は競技だけでなく、地元の方々との交流を深めるなど、盛会裏に終了したことを報告。

以上の諸報告をいずれも了承後、次回理事会は、平成 20 年 1 月 9 日 (水) 15 時から開催し、会議終了後 16 時から記者クラブとの懇親会を行なうことを確認し、14 時 40 分閉会。